

2020年12月2日(水)

『 私の生まれ故郷の横蔵について 』

卓話者 古野登喜夫会員

私の生まれ故郷の横蔵について（現在は岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲神原です）

今はミイラと紅葉、そして、ホテルの里として知られているかと思いますが、美濃の正倉院といわれるほどで、国の重要文化財に指定されている平安時代、鎌倉時代の仏像22体、絵画、書物などが多数、宝物殿にまつられています。

そんな横蔵寺の歴史について話したいと思います。

両界山横蔵寺は天台宗の寺院です。創建は延暦20年(西暦801年)平安時代の初めの頃、比叡山延暦寺の開祖でもある伝教大師最澄が1本の神木から2体の薬師如来像を自らの手で掘り、1体は比叡山延暦寺の御本尊とし、もう1体を担いで聖地を求めて諸国を旅しているときに御本尊を入れた蔵が横になって動かなくなったので、そこを聖地と決め、横蔵と名付けましたとさ。

そこは現在のお寺から1.5キロ離れた裏山の円山です。地元の豪族、三和次郎太夫藤原助基により創建されたと伝えられています。最盛期には三八の坊と300余の寺を持ち、何千人もの僧侶がいたそうで、比叡山延暦寺と肩を並べて大変な勢いだったそうです。

そんなためか、元亀2年(1571年)織田信長の命により、比叡山延暦寺に祭られている御本尊薬師寺如来像は、元々、横蔵寺にあったのですが、燃えてしまったので横蔵から移送したものです。

その後、衰退しましたが、江戸時代徳川家康の庇護を受け、山の頂上から現在の地に移し、三重塔や本堂が建てられました。

子どもの頃に聞いた話ですが、そのお寺跡には金の茶釜があったそうで、今でも山頂の寺跡のどこかに眠っているという話を聞いたことがあります。

もう一つ、即身仏、ミイラについて。1781年江戸時代天明の生まれです。本名は古野小市郎熊吉として、横倉村に生まれましたが、幼い頃に母親が亡くなり、そのため、長野の善光寺へ入門し、妙心と改名して修行に励んだそうです。

その後、富士山の山岳信仰の行者となり、35、6歳の頃に31日間の断食の後、白木の棺に入定して、即身仏ミイラになったそうです。その後は山梨のお寺に祭られていましたが、明治時代に入り横蔵寺の住職や熊吉さんの子孫たちの働きかけで里帰りができました。

現在は、舍利堂でお寺を守り続けています。私も小学生から高校生の頃まで、舍利堂の前でふんどし一丁で奉納相撲をした思い出があります。その昔は、お盆より横蔵寺の命日の8月20日が大変賑わい、その日にみんな里帰りをしたものでした。

